

昭和天皇実録 黒塗りせず

四半世紀の年月をかけて編さんが進められてきた昭和天皇実録が21日、天皇、皇后陛下下に渡された。戦争の世紀とも称される激動の20世紀を生きた昭和天皇。歴史の当事者として初めて明らかにする事実が含まれている可能性が高く、9月中旬に公表される内容には国内外から大きな注目が集まるとみられる。

来月に全文公開 知られざる事実 含む可能性高く

実録は、天皇や皇族の生涯を確実な資料に基づいて編年体で記した年代記で、明治以降は明治天皇の父である

8年、明治100年記念事業の一環として国が12冊を順次公開。大正天皇実録は情報公開法に基づいて2002年から順次公開された。しかし大正天皇実録では、宮内庁が個人情報にあたる判断した部分を大量に黒塗り

にした結果、後世に教訓を伝える「歴史書」としての役割が果たせていないとの批判が起きた。そのため今回は、黒塗りをせずに全文を公開するとしている。

同行によると、編さんの方針は、昭和天皇の幼少時代から即位まで、昭と天の生涯を①生まれ

た戦前については侍従ら側近の目録などである程度は明らかになっている。ただ、歴史上の重要局面でどう発言し、どう動いたのかという点について未解明な部分も多くあるとされている。

史料手薄な戦後に注目

「大正天皇」などの著作がある原武史・明治学院大教授(政治思想史)の話。さまざまな研究が行われている戦時中より史料が手薄な戦後に注目している。占領期における退位問題や戦争責任を巡る興味がある。

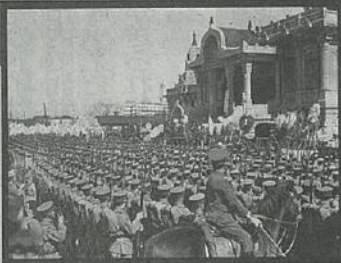
幼少時代の教育に関心

皇室の歴史に詳しい所功・京都産業大名誉教授(日本法制文化史)の話。後の人生に大きな影響を与える幼少時代の記述に注目している。東宮御学問所から即位までどんな教育が行われ、昭和天皇がどう受け止められたのかが大事だと思う。また父君(大正天皇)の病気で摂政になられたが一番つらかったのはご自身だったと思われ、その辺りがどの程度描かれているか興味を持っている。

実録で昭和天皇の言動が注目されるポイント

1936年 2・26事件

2月26日早朝、将兵約1500人が決起し、首相や蔵相らを襲撃し永田町一帯を占領した事件。天皇は自ら事態鎮圧に当たろうとしたことで知られる。



2・26事件で暗殺された高橋是清蔵相の本葬

1941年 開戦の判断

日本は12月8日、真珠湾を攻撃し開戦する。最後まで開戦を避けようとしていたとされる天皇がどの時点で「やむなし」の判断に傾いたのか。



日本軍の攻撃で猛煙が上がるハワイ・真珠湾

1945年 終戦の決断

天皇はどの時点で敗戦受け入れを決断したのか。沖縄戦や広島、長崎への原爆投下時の反応は。

戦艦ミズーリ号艦上で降伏文書に調印する日本全権の重光葵外相(右手前から2人目)



1945年 マッカーサー元帥との会見

連合国軍総司令官ダグラス・マッカーサー元帥との会見は9月27日に始まり、51年4月まで計11回に及んだ=写真。2人は何を話し合っていたのか。



旧貴族院本会議場での式典で日本国憲法公布の書面を朗読する昭和天皇

1946年 象徴天皇制

11月3日に公布された日本国憲法で、天皇は「日本国の象徴」と位置づけられ、国政に関与しないこととなった。「君主」だった天皇の感慨は。



1959年 皇太子結婚

皇太子さま(現在の天皇陛下)と正田美智子さん(同皇后陛下)との結婚式が4月10日にあり、民間人の女性が皇室に入った=写真。天皇の考えは。



1978年 A級戦犯の靖国神社合祀

戦後、靖国神社に計8回参拝した天皇は10月、A級戦犯14人が合祀(ごうし)されたので、以降は参拝を取りやめたとされる。靖国を巡る天皇の真意は。

靖国神社にモーニング姿で参拝する昭和天皇=54年10月、左から4人目

